

災害対策について

～病院までたどり着けない事を想定します～

退院した次の日に災害にあうかもしれない！
どんな準備が必要ですか？



退院前に確認すること

確認が必要な項目の□にチェックしてご家族に渡してください

□注入に関して

□全員

- 使用している濃厚流動食や特殊ミルクが手に入らなくなった場合の対応。
- 注入内容は一般的なミルクや食品(汁物やジュース)でも可能か。アレルギーはないか。

□胃瘻の場合

- 胃瘻ボタン交換日に通院できなかった場合の対応
- 固定のバルンが破裂してしまった時の対応
- 胃瘻ボタンが抜けた時の対応

□EDチューブの場合

- EDチューブが抜けたり詰まった時の対応(NGチューブ挿入でよいか)
- 注入ポンプが使用できなくなった時の対応(自然滴下での滴下量や手で注入する場合の1回量)
- 最重要な内服薬の確認(溶けにくい薬がある場合、詰まるリスクを冒してまで必ず注入しなければならないか)

□中心静脈栄養の場合

- 刺入部消毒の間隔

(テープがはがれるまで行わなくてよいか)

- 刺入部消毒用品が不足した場合の対応
- 輸液ポンプが使用できないときの対応(自然滴下の滴下数など)
- 輸液剤や輸液ルートが不足しそうな場合の対応

□呼吸に関して

□吸引器

- 吸引器のバッテリー稼働時間
- シガーライターコードの有無
- 車のシガーソケットで起動するか(合わない場合もある)
- 予備バッテリーの有無

□酸素濃縮器

- 酸素濃縮器のバッテリー有無と稼働時間
- 予備バッテリーの有無
- 自宅周囲の自家発電を持っている施設

□気管切開

- 気管カニューレ抜去時の対応
- 昼・夜でアンビューバックを加圧する人の人数(1人で24時間何日も加圧できません)

□排泄に関して

- ネラトンチューブ及び消毒液不足時の導尿方法(代用品について)
- 再利用型カテーテルの消毒薬不足時の対応

□薬剤に関して

- 最新の使用薬剤名及び量
- 投薬内容や方法は誰でもわかるようになっているか

□避難に関して

- 避難場所を想定しているか
- 大人一人で移動可能か
- 人手が必要な場合誰に頼めるか

退院後に確認する事

1. 必要な医療物品の確認

病院でもらう衛生材料のほかに水や消毒薬、栄養剤が1週間でどのくらい必要なか確認しておきましょう。

2. 必要なものをストック

最低1個、できれば3日分。サイズがあるものはサイズ一覧を作成しましょう。また、連絡先一覧、お薬手帳のコピー、保険証のコピーを災害時持ち出し袋などにしておきましょう。**袋に入りきらない時はお出かけやレスパイト入所を想定してキャリーバックに詰めましょう。**

【大きなゴミ袋とはさみを持ち歩きましょう！】

使い方：カットしてビニールシート状にする。

◎おむつ交換の時に敷く。ビニールシートの上で使用したお尻ふきとおむつをおけ、そのままビニールに包んで捨てられる。

◎子どもの下痢がひどい時、バギーに敷いたり、子どもをくるむ。バギーも抱っこする人の服も汚れない。

◎袋のまま

雨の日にバギーに載せている医療機器にかぶせる。

使い方はアイデア次第！！



必要物品がなかった場合の対応(案)

代替用品をイメージ

大地震や洪水など被害が広範囲にわたる自然災害時は停電や断水などライフラインが途絶えます。大雪や土砂崩れなどでは交通機関がマヒして病院にたどり着けなくなります。

医療物品および薬剤をストックしておいてもなくなってしまうかもしれません。

持ち出すことさえできないかもしれません。日頃から代替用品がないか考えておきましょう。下に一例をあげます。

1. 医ケア

1) 手技

(1) 必要物品：替えがないもの。

・災害時や物品がないときの対応

必ずこれが必要と書かれたものはできるだけ災害持ち出し袋に入れておきましょう。

1. 注入

1) NGチューブからの注入

(1) (2) (3) (4)



(5) (6)

(1) カテゼリー

- ・食用油やごま油で代用（誤嚥に注意）
- ・何もつけなくても挿入可能。

(2) 栄養カテーテル：必ずこれが必要

- ・同じものを洗って使いまわす。
- ・詰まったらカテーテルを抜いてしごき洗いをし、通水を繰り返す。

(3) テープ

- ・皮膚トラブルを覚悟のうえでテープであればどれでも代用可能。

(4) 黄色シリンジ：必ずこれが必要

- ・水洗いして使いまわす(煮沸するとゴムが早くだめになる)

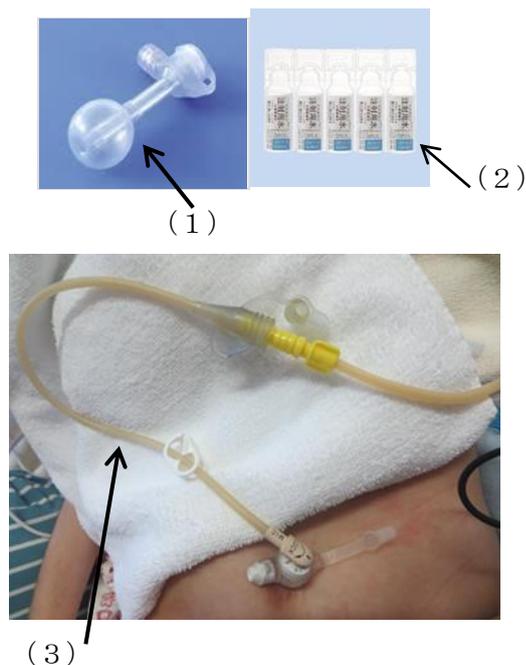
(5) 栄養ボトル

- ・栄養剤はシリンジで小分けに注入。

(6) 栄養チューブ

- ・栄養剤はシリンジで注入する。

2) 胃瘻からの注入



(1) 胃瘻ボタン：必ずこれが必要

- ・外来受診で交換した胃瘻をもらってきて、洗ってからミルトン消毒。ジップロックなどできれいに保管してストックボタンとする。次の交換日には破棄すること。
- ・胃瘻ボタンが抜けてしまったらストックボタンまたは同じボタンに固定水をいれ、水漏れがないことを確認。洗って再挿入。
- ・バルンが破けてしまったらストックボタンを入れる。商品の耐性を超えているので必ず破損部位がないか確認してから使用すること。

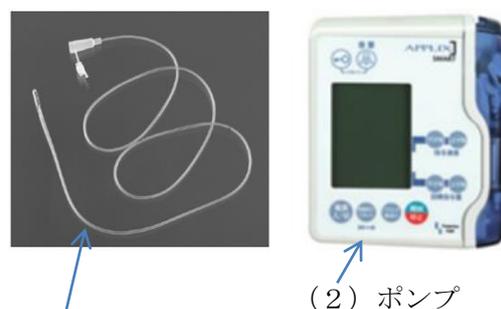
(2) バルン用注射用水

- ・水道水を使用

(3) ボタン接続用チューブ：必ずこれが必要

- ・定期交換日のあと、使用していたチューブ最低 2 本は洗ってミルトン消毒。ジップロックなどにいれてきれいに保管。次の交換日には破棄すること。
- ・商品の耐性を超えているので必ず破損部位がないか確認してから使用すること。

3) ED チューブからの注入



(1) ED チューブ

- ・NG チューブを挿入(もらっておくこと)
- ・詰まらせないよう、注入する内服薬を厳選する

(2) 注入用ポンプ

- ・ポンプ使用できない時の注入方法を主治医と決めておく (栄養剤を 24 回分に分けてシリンジで 1 時間おきにゆっくり注入など)

4) 共通：栄養剤

- ・一般的に使用されている粉ミルクや市販の液体栄養食品 (カロリーメイトドリンクタイプ) でカロリーを補充。
- ・ソリタ水の代わりに栄養ドリンクやお吸い物などを使用。

***ミルクアレルギーや下痢・嘔吐がないことを事前に確認する必要あり。**

2. 中心静脈栄養

1) 刺入部包交

(1) 皮膚保護材

- ・似たような商品があれば代用
- ・最後の 1 枚になったら、CV 刺入部は密閉されていると考え、包交しない。
- ・皮膚保護材の周囲がはがれてきたら何らかのテープを張り、刺入部の所まで剥がれないようにする。

(2) 消毒用綿デック

- ・綿棒で代用

(3) イソジン

- ・手に入る消毒薬で代用

2) ルート交換

(1) ポンプ用輸液セット：必ずこれが必要

- ・現在使用しているものを使い続ける。
- ・新しい輸液セットが手に入るまでの時期と残りの本数を考え、交換間隔をあける。

(2) 密封アルコール綿

- ・手に入る消毒薬とティッシュで代用

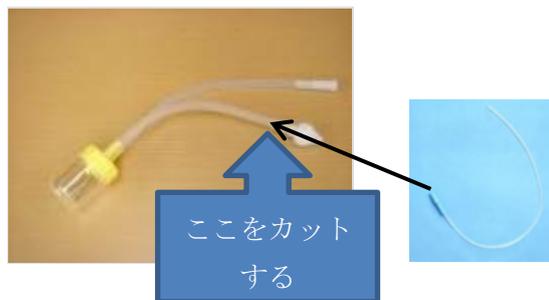
2) 輸液滴下

(1) 輸液ポンプ

- ・自然滴下で実施。

(2) 輸液剤：必ずこれが必要

- ・近隣の薬局に確認
- ・医師と決めた最低限の滴下数でおとす。
- ・糖が入った輸液で代用



- ・電源だけの問題であれば車のシガーソケットに接続（起動できるかどうか事前に確認）

(2) イソパロプノール+コットン綿

- ・消毒用アルコール製剤+ティッシュで代用
- ・マキロンなどの塩化ベンゼトニウムも代用（消毒効果は弱い）

(3) 手指消毒剤

- ウエットティッシュで代用

2. 吸引

1) 鼻口吸引

(1) 吸引チューブ

- ・1本を出来る限り使いまわす。
- ・柔らかいチューブ用のもので代用する。
- ・半腹臥位にして流涎させ、喉の奥に垂れこまないようにする。

2) 気管吸引

(1) 吸引チューブ：必ずこれが必要

(2) ラポテックアルコール

- ・気管用吸引チューブ保存用だが、乾燥容器でもよい。

*吸引チューブを拭く際、アルコール綿がなければティッシュでも可。

3) 共通

(1) 吸引器

- ・家族が直接吸引チューブから経口で吸引する。
- ・「ママ鼻水トッテ」のようなものを購入し、鼻腔部分のコネクターをカット。そこに吸引カテーテルをつける。

3. 酸素

1) 酸素濃縮器

- ・酸素ボンベに切り替える
- ・バッテリー搭載器の場合は自家発電機がある施設にいき充電する（「小春」はバッテリー内臓だが2.5時間しかもたない。）
- ・外部バッテリーを準備する

2) 酸素ボンベ：必ずこれが必要

- ・満タンなものが1つはあるように業者に連絡。
- ・ボンベの予備があるうちに近医へ移動。

3) 酸素カニューレ・マスク

- ・アンビューバックを持っていれば酸素を接続し口元へ。

4. 気管切開

1) 人工鼻

- ・ガーゼやハンカチなどを当てておく。

2) Yガーゼ

- ・どんなものでも代用可能。なくてもよい。

3) カフ用シリンジ：必ずこれが必要

4) 気管カニューレ：必ずこれが必要

- ・ 抜去時の対応を担当医と決めておく
(きれいな水で洗って再挿入可、など)
- 5) カテゼリー
- ・ なくても気管カニューレの挿入は可能

5. 人工呼吸器

1) 本体

- ・ バッテリーで起動しているうちに業者に連絡
- ・ 可能であれば自家発電のある施設へ移動。
- ・ バッテリー切れのときは交代で自己膨張式バック（アンビューバック）をおす。交代要員を確保する必要がある

3) 加温加湿器の蒸留水

- ・ 水道水は機器に塩素が付着するため望しくない。加温加湿器を **OFF** にして人工鼻を装着する。

*加温加湿器は必ず電源が必要になるため電源がないと利用できない

6・導尿

1) 間欠的導尿

(1) 導尿カテーテル：必ずこれが必要

- ・ 新しいチューブが手に入るまでの時期と残りの本数を考え、1日以上使いまわす
(流水で洗浄後消毒薬につけておく)

(2) 陰部用消毒薬

- ・ お尻ふきで代用

ここに書いてあるのは「案」です。
生活の中で使えそうなものをチェック
しておきましょう。



文責；小泉恵子

退院後はなるべく近所の人と会うように
しましょう！災害対策では、「助けが必要な
お子さんが住んでいるのだ」と多くの人に
わかってもらうことが大切です。